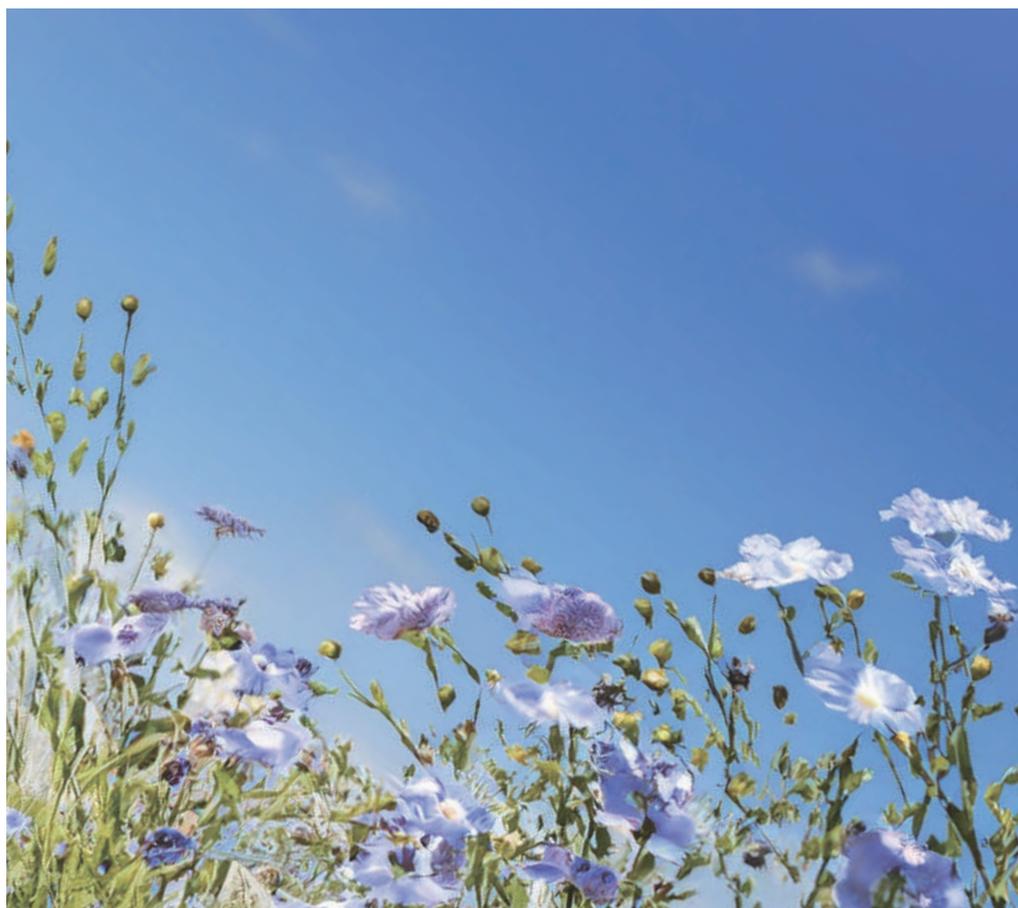


麻につるる



日本麻紡績協会

ASABO / Japan Linen, Ramie & Jute Spinners' Association

麻につる

| | | |
|---------------------|----------------|----------|
| 目次 | ・ ・ ・ | 1 |
| 日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶 | | |
| 日本麻紡績協会会長ご挨拶 | ・ ・ ・ | 2 |
| 経済産業省製造産業局生活製品課長ご挨拶 | | 3 |
| ・ 業界レポート | 2022年リネン（亜麻）事情 | ・ ・ ・ 5 |
| | 2023年ラミー事情 | ・ ・ ・ 6 |
| ・ 会員企業紹介 (五十音順) | 株式会社大志茂 | ・ ・ ・ 8 |
| | 甲株式会社 | ・ ・ ・ 9 |
| | 有限会社川登 | ・ ・ ・ 10 |
| | 豊田株式会社 | ・ ・ ・ 11 |
| | 西本株式会社 | ・ ・ ・ 12 |
| ・ 新会員企業紹介 | 株式会社成願 | ・ ・ ・ 13 |
| | ユウワ商工株式会社 | ・ ・ ・ 15 |
| ・ 産地情報 | 播州産地 | ・ ・ ・ 16 |
| | 三備地区 | ・ ・ ・ 18 |
| | 近江麻産地 | ・ ・ ・ 19 |
| | 新潟産地 | ・ ・ ・ 20 |
| | 浜松産地 | ・ ・ ・ 21 |
| | 尾州産地 | ・ ・ ・ 22 |
| ・ 第36回ミラノウニカ・レポート | | ・ ・ ・ 23 |
| ・ お知らせ（新刊紹介） | | ・ ・ ・ 26 |
| ・ 日本麻紡績協会の現況 | | ・ ・ ・ 27 |
| ・ 会員企業一覧 | | ・ ・ ・ 28 |

日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶

本年1月、東京パレスホテルにて日本麻紡績協会年賀交歓会が3年振りに開催され、白岩強会長、並びに来賓の経済産業省製造産業局田上博道課長、お二方から年頭のご挨拶をいただきました。本誌編集部では、当日のご挨拶を文字起こししましたので、以下に反訳書を掲載いたします。

日本麻紡績協会
会長 白岩 強

皆様、新年明けましておめでとうございます。

本日は日本麻紡績協会年賀交歓会に、御多忙にも関わらず大勢の皆様のご出席を賜り誠にありがとうございます。又、ご多忙のところ御来賓として経済産業省の田上課長様他皆様のご臨席を賜りました。厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大により賀詞交歓会開催は実に3年振りとなりましたが、会員の皆様がここパレスホテルに一堂に会し、無事に開催できたことを大変うれしく思っております。また、日頃から会員の皆様には当協会の運営に格別のご協力を賜り厚く御礼もうしあげます。

さて、現況、繊維業界は厳しい経営環境下、苦戦を強いられておりますが、麻、とりわけリネンは、作付面積や価格高騰等の課題があるものの、販売は徐々に回復基調にあります。環境変化の中で麻が見直され、今後さらに力強い動きを見せていくことはまちがいないものと確信いたしております。

カーボンニュートラルが声高に叫ばれる社会的な機運のもとで、天然繊維である麻は、そのものが土に還り、種という形で次に再生してゆきます。麻こそ再生の最たる繊維といっても過言ではありません。

特別な可能性に優れた天然繊維としてリネンをはじめとする麻に追い風が吹いております。市場では、アパレルだけでなく、寝装品、テーブル周りなど広い用途で注目され、いろんな形で発展する形が見えてきております。

40年前の麻ブームは一過性のブームでありましたが、今般は世界的な潮流でもある持続可能性の実現と合致した必然的な成長であります。SDGs（持続可能な開発目標）に合致した、優れた天然繊維として、リネンをはじめとする麻にフォローの追い風が吹いております。

国際社会において、日本が、自信や誇り、勇気をなくしつつある中、日本麻紡績協会が、世界、社会の変化を先取りした取り組みを進め、われわれ麻業界が日本経済の先頭を切って走る気概で目線を高く取り組んでいきたいと思っております。

日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶

経済産業省製造産業局生活製品課長
田上 博道様

新年、明けましておめでとうございます。本日は日本麻紡績協会年賀交歓会にお招きいただき誠にありがとうございます。また、去年は、貴協会が設立70周年の節目の年を迎えられましたことを、改めてお慶び申し上げます。

今、世界は時代の転換点を迎えています。気候変動、コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵略という3つの危機に加え、特に日本においては、地域にも大きな影響を与える少子高齢化・人口減少という課題への同時対応が求められています。

繊維産業、とりわけ麻業界の皆様にとっては、フラックスの不作や、ウクライナ侵略などを起因とした原油・原材料価格の高騰や円安の影響等により、依然として厳しい状況であるものと承知しております。

経済産業省としては、令和四年度第二次補正予算等により電力・ガス料金の急激な値上げに対する家計・企業の負担軽減や省エネ設備の導入支援に加え、中小企業者に対する資金繰り、事業再構築や生産性向上に向けた支援、インボイス制度の導入に向けたIT環境の整備支援などにより繊維産業を全力で支援してまいります。

また、原油・原材料価格の高騰等に対し、必要な価格転嫁がなされるようパートナーシップ構築宣言の推進など下請取引の適正化も進めてまいります。貴協会の皆様におかれましては、パートナーシップ構築宣言への参加推進に御協力をお願いいたします。

地球環境を意識したSDGsの観点から、天然素材である麻が一層注目され、衣料分野では春夏のみならず、年間を通じて使用される素材として定着してまいりました。さらに、従来から「冷感」「吸水・吸湿性」「発散性」などが高く評価される生活に身近な素材であります。

欧州をはじめ、国際社会においてサステナビリティへの関心が高まる中、企業による環境配慮や人権尊重に向けた取り組みがより一層求められています。環境配慮については、カーボンニュートラルへの対応を変革の好機として捉え、成長につなげていくことが必要です。生産体制の見直しにあたり、事業再構築補助金をご用意しておりますので、是非ご活用いただければと思います。また、衣料品のリサイクルも推進していく必要があり、本年1月より、新たに繊維製品の資源循環利用に関する検討会を立ち上げ、繊維の回収及びリサイクル繊維を活用した製品の販売における技術的・制度的課題を検討し、繊維業界における循環型経済の確立を目指します。

さらに、人権尊重に向けた取り組みについては、昨年7月、国際労働機関（ILO）による御協力の下、日本繊維産業連盟において、「繊維産業における責任ある企業行動ガイドライン」が公表されました。労働者の人権に関し自社で確認すべき事項と対応策をチェックリストとして例示しています。特に、繊維産業では、多くの外国人技能実習生を受け入れています。残念ながら労働関係法規などの違反事例が依然として報告されている状況です。皆様にて自社のサプライチェーンに問題がないか、今一度点検をしていただき、かつビジネスチャンスになることを十分ご理解の上、事業活動に反映していただくことを期待します。

今年は、十干（じっかん）十二支（じゅうにし）の「癸卯（みずのとう）」です。これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になると言われています。大きな耳で様々な音を聞き分け素早く飛び跳ねるうさぎのように、よく聞き俊敏に行動する、そのような一年にしたいと思います。

どうぞ、本年が麻紡績業界にとりまして、更なる製品開発・新規市場開拓といった芽が吹き、さらに産業全体が大きく繁栄・飛躍の年となるよう業界の益々の御発展と、そして、本日御出席の皆様の更なる御活躍と御健勝を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願いいたします。



業界レポート

2022年～2023年リネン（亜麻）事情

ヨーロッパにおけるフラックス生産の推移

| | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|---------------|---------|---------|---------|---------|-----------------|-----------------|
| 作付面積 (Ha) | 124,092 | 139,610 | 170,000 | 120,000 | 144,700 | 150,000 (予想) |
| 原料生産数量 (t) | 142,793 | 182,456 | 150,000 | 147,000 | 100,000 (予想) | 150,000 (予想) |

2022年度のフラックス生産は回復傾向であったが、価格面では値下げ要因は見えず、依然高値圏で推移している。特に細番手原料の上げ幅激しい。一部日本のアパレルはリネン100%商品を敬遠し、混紡（含合繊混紡）へ展開の動きが見られる。

中国リネン実情

2022 フラックス原料輸入数量及び輸入単価

数量：1 亜 13.47 万トン、2021 年に対し 7.19% 減少。

2 亜 7.16 万トン 2021 年に対し 21.56% 増加。

単価：1 亜年平均昨対 21.08% 増加。2022 年 12 月単月単価は過去最高に達した。

2 亜年平均昨対 3.77% 増加。

中国リネン糸輸出額

2022 年 2.46 万トン、金額 2.98 億米ドル

中国亜麻織物輸出額

2022 年 3.6 億メートル、金額 11.69 億米ドル

糸、織物合計輸出額昨対：24.53% 伸び、過去最高。

中国ラミー糸、織物輸出は過去最低

2022 年ラミー糸輸出 426.17 トン 金額 525.07 万米ドル。

2022 年ラミー糸、織物合計輸出額 6325.92 万米ドル 過去最高から 90% 減、特に苧麻織物の減少が目立つ。

2022 年大麻（ヘンプ）糸輸出 1234.96 トン 金額 1462.2 万米ドル

2022 年ヘンプ糸、織物合計輸出額 3605.75 万米ドル、昨対 33.39% 増加。

中国フラックス原料輸入先比率

フランス 68%、ベルギー 14%、エジプト 9%（昨年 5% から 9% に伸び）、

ベラルーシ 3%、その他 6%（資料提供先：CBLFTA）

2022 年～2023 年現在中国麻紡績稼働率が低下、約 60 万錠稼働と思われる。原因は高値の原料調達により紡績工場の経営を圧迫しているため。

業界レポート

2022年～2023年ラミー（苧麻）事情

2022年度ラミー原料に関する状況は以下の通りです。

1. 2022年度ラミーの栽培状況について

2022年の栽培状況について現地に調査、報告を依頼したものの、公式な記録がなく、正確な数字を把握する事は出来なかった。以下栽培面積、生産量、原草価格等は、複数社の情報を収集し、長年中国の原料を取扱っている原料商と駐在員にまとめてもらった。

2. ラミーの栽培面積及び生産量について（推定）

栽培面積は目立った増加はないものの昨年の約7万畝（4,670Ha）よりは増加し7万畝～10万畝（6,600Ha）の間と推測される。

その主要産地は四川省・湖南省・湖北省・重慶市・江西省と従来とかわらず。特に四川省が全体の約7割を占めていると思われる。また、伝統的手工芸品用に一部の地域で少量の栽培がおこなわれている。

2022年度の実産量は、深刻な干ばつの影響で約20%程度のロスがあったと思われ、10,000t前後と推測される。

3. 原草価格について

原草価格については、2016年より急騰し、2020年に高止まり状態となって以降、同水準の状態が続いている。

急騰前に比べ市場規模はかなり縮小してしまったものの、他の繊維に比べると安定し始めており、農家の生産意欲に期待したいところ。

また、刈取後の剥ぎ作業の機械化がより進みつつあり、手剥ぎに比べ安く販売する事が可能になった模様で、市中価格の安定に貢献し出している。

4. 2023年の見通しについて

ラミー原料の取扱いに関しては、現在の市場性や工場の生産能力がほぼ収穫量と一致しており、またこの1年大きな変化がなかった為、一見安定しているように見えるが、問題は数多く残されている。

顕著になっているのは、農民の高齢化と後継者不在で、地方政府や主要生産企業がバックアップし栽培面積が確保できても労働力不足に陥ってしまいかねない。その為、機械化の更なる加速が急務となっている。また、原草の出来高が増加しても、それを加工する工場数が減少しており、回復が見込めない状況となっている。

農家、工場、市場が共に伸び、安定した環境を作り出せるよう願ってやまない。

亜麻・苧麻統計表

(単位：千円)

| 品目 平成/令和年 (1～12月) | 輸入糸 | | | | | |
|-------------------------|--------|-----------|--------|---------|--------|-----------|
| | 亜麻糸 | | 苧麻糸 | | 計 | |
| | 数量 (t) | 金額 | 数量 (t) | 金額 | 数量 (t) | 金額 |
| 平成 21 年 | 805 | 752,842 | 247 | 198,107 | 1,052 | 950,949 |
| 平成 22 年 | 903 | 762,908 | 298 | 249,500 | 1,201 | 1,012,408 |
| 平成 23 年 | 1,315 | 1,243,565 | 338 | 269,174 | 1,653 | 1,512,739 |
| 平成 24 年 | 1,172 | 1,099,260 | 262 | 232,549 | 1,434 | 1,331,809 |
| 平成 25 年 | 1,574 | 1,730,654 | 294 | 327,287 | 1,868 | 2,057,941 |
| 平成 26 年 | 1,452 | 1,826,471 | 315 | 380,177 | 1,767 | 2,206,648 |
| 平成 27 年 | 1,512 | 2,149,292 | 307 | 448,620 | 1,819 | 2,597,912 |
| 平成 28 年 | 1,178 | 1,410,512 | 215 | 278,070 | 1,393 | 1,688,582 |
| 平成 29 年 | 1,294 | 1,490,800 | 220 | 299,854 | 1,514 | 1,790,654 |
| 平成 30 年 | 1,382 | 1,737,013 | 225 | 360,732 | 1,607 | 2,097,745 |
| 令和元年 | 1,315 | 1,751,145 | 163 | 272,176 | 1,478 | 2,023,321 |
| 令和 2 年 | 652 | 809,137 | 78 | 151,478 | 730 | 960,615 |
| 令和 3 年 | 819 | 1,091,591 | 74 | 152,199 | 893 | 1,243,790 |
| 令和 4 年 | 903 | 1,649,397 | 108 | 298,616 | 1,011 | 1,948,013 |

(注) 財務省日本貿易統計による。

(単位：千円)

| 品目 平成/令和年 (1～12月) | 輸入織物 | | | | | | 輸入ハンカチ | |
|-------------------------|---------|-----------|---------|---------|---------|-----------|-----------|--------|
| | 亜麻織物 | | 苧麻織物 | | 計 | | 亜麻・苧麻ハンカチ | |
| | 数量 (千㎡) | 金額 | 数量 (千㎡) | 金額 | 数量 (千㎡) | 金額 | 数量 (千枚) | 金額 |
| 平成 21 年 | 6,224 | 1,769,982 | 995 | 275,402 | 7,219 | 2,045,384 | 331 | 62,549 |
| 平成 22 年 | 6,244 | 1,827,638 | 618 | 178,334 | 6,862 | 2,005,972 | 219 | 32,372 |
| 平成 23 年 | 6,954 | 2,351,660 | 928 | 247,210 | 7,882 | 2,598,870 | 114 | 25,943 |
| 平成 24 年 | 6,702 | 2,330,368 | 646 | 204,931 | 7,348 | 2,535,299 | 124 | 36,842 |
| 平成 25 年 | 7,134 | 2,878,201 | 717 | 239,543 | 7,851 | 3,117,744 | 81 | 40,658 |
| 平成 26 年 | 7,365 | 3,236,254 | 687 | 274,121 | 8,052 | 3,510,375 | 85 | 44,298 |
| 平成 27 年 | 6,822 | 3,258,646 | 796 | 289,496 | 7,618 | 3,548,142 | 87 | 38,013 |
| 平成 28 年 | 7,642 | 3,037,204 | 640 | 219,255 | 8,282 | 3,256,459 | 83 | 32,654 |
| 平成 29 年 | 7,624 | 3,019,338 | 605 | 212,452 | 8,229 | 3,231,790 | 86 | 36,624 |
| 平成 30 年 | 7,609 | 3,289,511 | 674 | 269,854 | 8,283 | 3,559,365 | 61 | 29,381 |
| 令和元年 | 7,683 | 3,248,368 | 426 | 184,789 | 8,109 | 3,433,157 | 57 | 26,299 |
| 令和 2 年 | 6,347 | 2,345,238 | 383 | 175,882 | 6,730 | 2,521,120 | 76 | 23,444 |
| 令和 3 年 | 5,944 | 2,238,410 | 286 | 134,794 | 6,230 | 2,373,204 | 56 | 19,704 |
| 令和 4 年 | 5,039 | 2,655,833 | 178 | 108,398 | 5,217 | 2,764,231 | 98 | 26,249 |

(注) 財務省日本貿易統計による。

会員企業紹介 (五十音順)

株式会社大志茂

代表取締役社長 森下 直哉

当社は現取締役会長森下勇作が昭和30年代から麻製品検査協会（後にQTEC）という通産省（当時）の外郭団体において、輸出用麻製品の品質検査に取り組んできたことを基礎とし、多くのお客様のご支援ご指導をいただき独立創業したのが始まりです。

事業内容としては日本麻紡績協会員の皆様と同じく麻糸、麻生地 of 企画、製造、販売をしておりますが、そこから漏れる『ニッチ市場』『隙間産業』を得意としております。

例としては

リネン糸のカラー糸全88色常備在庫。1kg（1本）からの販売。

ケナフ100%の糸、黄麻糸、マニラ、アバカ、サイザル等、‘麻の仲間’の販売。

靴、鞆、帽子、インテリア等（アパレル以外）の資材企画販売。

コロナ過での巣ごもりによる手芸ブーム到来による手芸材料の企画販売。 等

これからも当社は、麻を異業種に異業種を麻業界に「目の付けどころがオオシモでしょう」と言ってもらえるよう日々精進してまいります。

<会社概要>

住所 520-0836 滋賀県大津市杉浦町 6-40

連絡先 TEL 077-533-1145 FAX 077-534-5545

事業内容 麻を主とする繊維製品の企画、製造、販売

創業 昭和58年（1983年）

設立 昭和63年（1988年）

資本金 1,000万円



会員企業紹介 (五十音順)

甲株式会社

代表取締役社長 仁禮 恭一

弊社は、1945年（昭和20年）に商工省より帽子生産業者の指定を受け、各種官制帽・作業帽等の製造販売を目的として創立されました。その後、繊維製品の統制撤廃を機会に被服類及雑貨類の縫製加工及販売も併せて営む体制を整備し現在に至ります。

主として、官公庁・交通関係の繊維製品を製造販売する中で、時代の変遷と共に形や材質は大きく変化してきましたが、いつの時代のご要望にも対応する事に心がけ、新製品の開発はもとより、提案型商品にも積極的に取組み、「時代を造る」をテーマに研究し商品をお届けしております。

【会社概要】

商号 甲株式会社

創立 1945年（昭和20年）11月

資本金 1000万円

代表者 代表取締役社長 仁禮 恭一

所在地 東京都千代田区外神田3丁目8番13号

TEL : 03 (3255) 7571

FAX : 03 (3255) 6525

【業務内容】

制帽・各種帽子類の製造販売

制服、各種被服類、ネクタイ・手袋・靴下の販売



会員企業紹介 (五十音順)

有限会社川登

代表取締役 川瀬 富雄

愛知県と岐阜県の県境を流れる木曾川をまたいだ周辺一帯は尾州と呼ばれ、毛織物の産地として発展してきました。

弊社の先代も他社で毛織物を手掛けていました。尾州ではあまり扱いのない麻糸を織るというチャレンジにあたり、現在の地に工場を建て40年余りになります。創業時より麻と共に歩んできました。

試行錯誤を経て尚、勉強する日々が続いており、麻糸は奥深い素材です。

整経をどれだけ完璧にするかで製織の仕上がりが決まりますが、それだけではない様々な要因が麻織物には求められます。弊社は木曾川に囲まれた地域のため、湿度がある環境も麻にはよい影響の一つかもしれません。

このような諸条件を活かしながら、これからも技術の向上と工夫を凝らし取り組んでいきたいと考えています。

< 会社概要 >

業種 織物製造

創立 1980年10月

設立 1991年12月

住所 〒501-6028 岐阜県各務原市川島渡町128

連絡先 TEL FAX 0586-89-3501



会員企業紹介 (五十音順)

豊田株式会社

代表取締役社長 豊田 伸隆

当社は1950年にウールの糸を扱った撚糸加工業で創業致しました。

その後は1983年頃から麻の糸も取り扱うようになりました。

麻は、天然繊維のなかでも最も涼しい繊維といわれ、涼やかで爽やかな着心地は夏にピッタリの素材です。

麻のメリットは、水分の吸収性が良く涼感があることです。

強度があり、水に濡れても問題なく、光沢があり、触った感覚がさらりとして張りのある感触です。

麻のデメリットは、柔軟性が乏しいため通常の繊維よりシワになりやすいことです。日本では「麻」と呼ばれる繊維には数十以上の種類があります。

一般的なものではリネン（亜麻）、ラミー（苧麻）、ヘンプ（大麻）、ジュート（黄麻）、などがあります。その中では「リネン」は最高級に位置するといわれ、しなやかな肌触りと、上品な光沢を持っています。

当社では麻の糸に撚りをかける加工の他、麻とナイロン、テトロン、水溶性ビニロンなどの長繊維と撚りをかける事も行っています。これからも麻の特性を生かせるよう日々加工技術の研究を重ね、着心地の良い製品が出来るように努力を致してまいります。

創業以来創業者の仕事に対する心構えとして、明るくなごやかな家庭は、信頼と尊敬から始まります、相互信頼を基盤として明るい職場でお互いの心のつながりや人間関係を深め、お互いの繁栄に努めたいと思います。これからも健康で明るく生産向上に総力結集し、努力してまいります。

【会社概要】

創業 昭和25年（1950年）
設立 昭和30年（1955年）
代表者 代表取締役社長 豊田 伸隆
資本金 1,000万円
住所 〒491-0142 愛知県一宮市浅井町河田字中屋敷351
TEL0586-78-3175 FAX0586-78-0137



会員企業紹介 (五十音順)

西本株式会社

代表取締役社長 西本 一弘

当社は、1930年に創業致しました。創業当時は、畳縁と蚊帳を中心に生産を行い、日本家屋になくってはならないものとして大変ご好評をいただきました。

1950年頃より生活様式の変化にともない、床材基布製造へと事業を転換し、現在は、床材の裏地シートの製造をメインに生産を行っております。

原系メーカー様のご協力をいただきながらオリジナルの原系によって商品の開発に着手するとともに、100年企業を目指して、時代に沿った商品をご提案できるよう日々邁進して参ります。

【会社概要】

商号 西本株式会社

設立 1930年5月

資本金 1,000万円

代表者 代表取締役社長 西本 一弘

事業内容 床材用基布、漆器用下地、装丁布、畳縁などの製造販売、防災用品販売

所在地 〒918-8001 福井県福井市つくも2丁目112

連絡先電話 (0776) 36-4551 (代 FAX (0776) 36-5117 (代

Mail kazunishimoto@nifty.com

【会社沿革】

1930年5月 昭和織物合資会社を設立

1949年 合名会社西本商店を設立

1952年10月 上記2社を合併し株式会社西本商店を設立

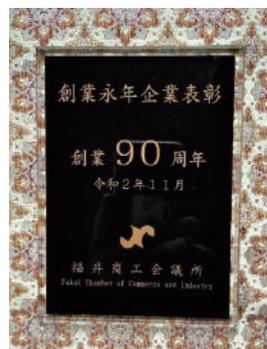
本社工場にて蚊帳地、武生工場にて畳縁たたみべりの生産を開始

1958年 床材基布の生産を開始

1990年 西本株式会社にて商号変更

2004年 織物加工剤の販売を開始

2022年 防災用品の販売を開始



新会員企業紹介 (五十音順)

株式会社成願

代表取締役社長 仙波 一昌

弊社は戦後間もない1946年(昭和21年)、タオル産業発祥の地、大阪・泉州で創業し、自由な発想と飽くなき向上心をもって、社業を発展させ、激変する時代の中で、実直にもこの作りに励み、【開発力の成願】としての地位を作り上げてきました。

私共の特色としては、熟練の技術者たちによって長年蓄積されたノウハウはもちろんのこと、使い心地の良さを追求したなめらかな肌触りを実現する製織技術を有し、時代に即した付加価値を生み出す力です。

品質の高さが保証された自社工場による国内生産、使用する素材や加工技術にまでこだわった商品を生み出す開発魂が大きな強みと自負しております。

商品開発において当社が大事にしているポリシーは、「明確なセールスポイントやストーリーのある商品作り」です。繊維メーカーや異業種企業、大学の研究機関とコラボレーションしたオリジナルの開発素材、技術を用いたタオル製品などは、消費する側の要望と供給する側の思いがマッチしており、各方面から高い評価をいただいております。

世界中で行動様式の変化に迫られた昨今ですが、快適な生活空間で安らぎを求める気持ちは、誰もが持っています。繋がる方法が多様化した結果、日本国内のみならず、アジア圏を中心とする海外からも多くのお問合せをいただく機会が増えてきました。

今後は今まで以上に当社の思いを発信し、多くの人と当社の社員双方が、ともに心の豊かさを味わえるようなものづくりを続けてまいります。

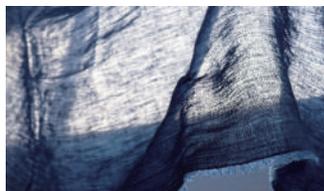
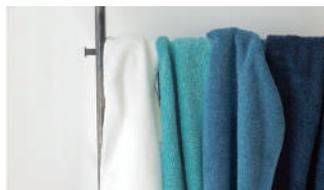
【会社概要】

| | |
|--------|--|
| 商号 | 株式会社 成願 |
| 創業 | 昭和21年4月 |
| 設立 | 昭和27年12月 |
| 代表者 | 代表取締役社長 仙波 一昌 |
| 所在地 本社 | 〒590-0531 大阪府泉南市岡田6-29-38 TEL 072-483-3711 |
| 東京店 | 〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町7-15 ハニー堀留第二ビル6F TEL 03-3667-5577 |
| 事業内容 | タオル製品、寝装品等の企画・製造・販売 実用新案登録24件 |



【麻への関わり】

天然の涼感を味わえる麻の素材は、蒸し暑い日本の夏にぴったりの素材です。弊社では、織るのが難しい天然麻 100%のパイル織物や多重ガーゼ織物などを活用した寝具など、高級感ある商品づくりを手掛けています。使うほどになじんでいく麻の商品を、国内外問わず広めていきたいと考えております。



新会員企業紹介 (五十音順)

ユウワ商工株式会社

代表取締役 盛重 裕行

弊社は官公庁様・企業様向けのユニフォームの企画・製造・販売を行っており、ユニフォームを通じてお客様の安全・安心・機能を加え、仕事への意識向上に貢献できる商品開発に日々取り組んでおります。

令和2年11月に設立したばかりのまだまだ駆け出しの会社ではございますが、官公庁・郵便・独立行政法人等に納入実績が出来てまいりました。

社名「ユウワ商工」の由来ですが「ユウワ」の「ユウ」は「裕福」を意味し、「ワ」は「和む」と「和の国・日本」という二つを意味しております。

「商業と工業（もの作り）を通じて日本を裕福で和やかな社会にする」という思いを込め、事業を通じてお客様の満足度を上げ、それが社会貢献に繋がるべく活動して行く所存であります。

<企業概要>

称号 ユウワ商工 株式会社

設立 2020年（令和2年）11月6日

資本金 990万円

住所 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-8 中央ビル 3F

電話 03-6260-7002 FAX 03-6260-7003

<事業内容>

ユニフォームを主とした繊維製品の企画・製造・販売。

オーダーシャツ、防災用品の販売。

<取扱商品>

ユニフォーム類（制服・作業服・事務服・シャツ類・雨衣・防寒衣・白衣）・

オーダーシャツ・その他繊維製品全般・防災用品・災害用非常食等。

<麻への関わり>

主に夏服の素材として取扱いをさせていただいております。麻は強度が高く通気性・清涼感に優れていますので夏服の素材として最適です。また合成繊維には無い高級感があり、麻素材の制服は着る人の満足度を向上させ、併せて威厳・格式を高めると考えます。そして麻は様々な素材との混紡で多種多様な機能を生み出せる素材で、今後とも積極的に携わって行きたい素材と考えております。

<関連会社>

- ・株式会社 丸幸辰野
- ・株式会社 丸幸 SUZUGEN
- ・株式会社 神光



産地情報

播州織物協同組合（非会員）

播州産地

播州織とは、兵庫県のほぼ中央に位置する北播磨地域（*）で生産される綿の先染織物。様々な色に糸を染め、染め上げた糸で柄を織る「先染め」が特徴です。

自然の恵みあふれる豊かな風土が、ナチュラルな肌触り、変化に富んだ風合い、豊かな色彩を、生地一枚一枚に醸し出します。

綿の先染織物の国内生産では、高いシェアを誇る播州織。

長い歴史が育んできた伝統をベースに、日々進化を続けています。

*兵庫県西脇市・多可町・加西市・加東市で生産

「播州織」は自然のたまものです ～豊かさへの決意～

先染織物が産業として開花するために必要なくつかの条件の中で、「播州織」がもっとも恵まれたものが清流でした。

この地に流れる加古川、杉原川、野間川の豊かな流れが、染色にもっとも適した「軟水」を与えてくれたのです。

自然の恵みを得たこの地の人々が、この地の自然と共生しながら育んできたものが「播州織」です。

北播磨の自然と人々が育んできた「播州織」が、自然を破壊するようなことがあってはいけません。

自然に対し常に優しくなければいけないと、私たちは考えています。

そのために、常にきれいな水を自然に戻すよう努めてきました。

瀬戸内海環境保全臨時措置法で定められた基準を満たし、世界レベルでの厳しい基準をクリアする排水処理施設は、その一例です。

染色にとどまらず、「播州織」に関わるすべての場や工程は、安心してお使いいただけるテキスタイルづくりを心がけています。北播磨の地が、清流に鳥や魚があふれる地であってほしいと願うから。私たちがいつまでも自然とともにありたいと、想っているからです。そして今私たちは、そんな地域を次の世代に引き継いでゆこうとしています。

そのような北播磨で作られたテキスタイルは、手にしたすべての人々に豊かさをお届けできると、信じているのです。

歴史

江戸時代中期

播州地方で綿花の栽培を開始。1750年頃から、豊富な水資源を活かした糸染めが始まる。

1792年

飛田安兵衛が京都から織機の製造技術を持ち帰ったことで織物の生産が盛んになる。

江戸時代末期

工場制手工業の段階に達し、産地が形成される。明治初期には綿布業者が60～70軒に達した記録がある。

1877年

合成化学染料が輸入され色彩が多様化。1900年には、織機の動力用に石油発動機が導入され近代化が始まる。

1906年

織物品評会で「播州織」の名称が初めて登場する。

1913年

播州鉄道の開通と大戦景気により「播州織」の名が全国に広がる。

第一次世界大戦後に輸出開始。関東大震災により貿易の中心が横浜から神戸に移ったことで、輸出産地として飛躍。

1920年

兵庫県立工業試験場西脇分場が設置され、染色、加工の技術革新が進む。

1937年には保有織機台数が16,368台に達し黄金時代を築く。

1971年、1985年

2度の円高の節目で輸出不振から内需にシフト。1987年に387,769千平方メートルの生産ピークを迎えた後、1990年代からは廉価な製品輸入に押され生産量が激減。

西脇郷土資料館（1984年）、播州織未来館（1999年）、播州織工房館（2004年）による情報発信を開始。

2000年代

高速自動織機やコンピュータデザインの導入など、短サイクルの需要にこたえる構造改革が進む。

2008年

地域ブランド「播州織」を取得し、産地品質保証の確立と強化を始める。

2016年

「播州織ふるさと名物応援宣言」などの活性化策で行政と連携。デザイナー移住や企業活性化を推進。

播州織産地は、先染め産地ですので、自然な風合い、色合いの良さ、豊かな色彩、素晴らしい肌触りを特徴とし、高速自動織機や合理化された製造ライン、コンピューターによる品質管理など完備された最新システムで、原糸準備、染から織、仕上げ加工までを産地で一貫した工程を行える強みを生かして、多品種・小ロット・短納期・短サイクルの需要にも皆様の要望にお答えすることが出来ます。



産地情報

パインミルズ株式会社
代表取締役 小松 聖
(非会員)

三備地区

デニムについて

現在日本産デニム生地の大部分が、備中・備後地区で生産されております。

歴史的には、江戸時代に綿花の栽培が盛んになり、その流れで紡績業・織物業の発展へとつながっていきました。江戸時代後期には、備後絣などの先染め厚地織物の生産が開始されたことで、現在のデニム生産への足掛かりとなっております。

この産地で生産されるデニム生地は、米国・欧州等の世界的なブランドにも高い評価を受けており国内向けの生地販売だけでなく、海外への輸出も大きなウェイトを占めるに至っております。

通常デニム生地は、インディゴ染された綿の経糸と綿の生成り緯糸で製織された綾織物のことでありましたが、現在ではさまざまな変わった素材を使用した生地も開発されており、リネン100%・ウール100%・綿カシミア・綿シルク等の素材を使ったデニム生地も一般的になりつつあります。また、デニムといえば、着用しているうちにインディゴ色が色落ちていき独自のエイジングが進むことも魅力の1つです。半面、堅牢度が悪いので生地の使用はファッション用途に限定されることも多かったのですが、経糸をあえて反応染料で染めたり、原着ポリエステルを使用したりして色落ちしないデニムも登場しており、今後はさらに発展した【デニム】生地が開発されていくことになると思われます。

加工について

デニム生地では一般的な生地加工に、洗い加工があります。

織りあがった生地を洗うことで色の濃淡を出したり、塩素ブリーチを行うことであえて色を薄くしたり、軽石と同時に洗うことでよりハードに濃淡を表現したりといった加工です。

弊社は備後産地にて洗い加工を行っておりますが、従来は流行りの加工があり特定の加工にオーダーが集中する傾向にありましたが、今は流行りの加工というものではなく、お客様ごとに好みの加工がある感じです。一般的に多様化の時代でありニーズを絞りにくいと言われておりますが、デニムの加工分野においても同じ状況になっていると実感しております。ヒット商品の作りにくい状況の中でも高品質・短納期の生産体制を徹底させることで市場のニーズに答えようと思っております。



産地情報

株式会社大長

近江麻産地

2023年の春を迎え、日本の経済状況を見れば、飲食、観光の回復基調が見られる中、衣料関連もコロナ前とはいかないまでも回復基調にあります。ただ、そうした中で滋賀(湖東)地区の麻製品の回復状況は各企業において隔たりはあるものの、まだ80%~90%止まりではないかと思われます。元々、麻製品は綿や合繊に対して高額であり、糸値の値上がりに伴い、アパレルの商品企画時点で回復に影響を及ぼしていると考えられます。又、県内外、合わせての麻製品を製造しているメーカーの生産状況としては、先染、P下製品の量は依然大きく下回っておりますが、無地(後染)染量は90%以上に戻って来ていると思われます。

23年度の麻製品の動向においては、麻糸価格とエネルギーの問題がさらに大きく影響するものと考えられ、麻製品自体がエコ製品であり、そうした意味では現在の社会状況下では追い風が吹いていると考えられるのですが、異常な物価高の状況では逆風となりかねません。

麻製品の風合、形状の主流は、レギュラー且つソフト感と洗い晒形状が中心となっていました。新しいニーズとしてバイオ加工したもの、光沢加工を施したものが求められています。さらにソフト感とは真逆の強アルカリ処理をしたハード感があるものを求めるアパレルも出てきています。



DAICHO CO.,LTD.
<https://daicho-ohmi.com>



産地情報

浅記株式会社

新潟産地

コロナ禍の影響も多少減って来ており、経済が徐々に回復している中で、ウクライナ情勢による影響、国際的な物流の混乱など、いろいろな事が複雑に影響しあつての原材料の高騰が経営事態を圧迫していると思われます。

新潟産地は多品種、少量の先染織物を得意としておりますが、それでも厳しい状態が続いております。そのような中でも、他産地ではできない、長・短・複合の先染織物には引合が続いているように感じております。



新潟産地



産地情報

株式会社タケミクロス

浜松産地

遠州産地および天竜社産地の令和5年度の状況は、両産地合わせて準備工程である糊付工場が3軒、整経工場5軒、織屋に関しては約80軒、織機台数約100台とピーク時に比べて500分の1と激減しております。

高齢化が進み後継者も少なく近年は原料、電気、油等の値上げ、織り機の部品の製造中止も多く廃業を考える所もある中、遠州織物協業組合、静岡県繊維協会の協力のもと数少ない次世代の若者達が、遠州産地「遠州織物」ブランドを前面に打ち出し、企画・販売に力を入れております。

昔から天然繊維を扱っていた地域性を生かし、サステイナブルやエシカルなどの嗜好に向かい始め、織場の減少を少しでも留めるべく健闘しており、順調に推移している状況です。

弊社も本年度より遠州地方で織られた限定の生地ブランド“ethicloth”を発足しました。この“ethicloth”は伝統文化の継承・地域への貢献・材料や製造過程の透明性・地球環境への配慮等を発信しています。

また、産地を担う若者や作家さん達もこうした思いを持って日々頑張っております。




ethicloth
HAMAMATSU LINEN LABORATORY

産地情報

尾州産地

尾州産地はイタリア、イギリスと並ぶウールの世界三大産地とされています。イタリアでは梳毛はビエラ、紡毛プラトー、イギリスは少し規模は小さくなりますがハダースフィールドが有名です。最近では産地の縮小が進んでおり、親機（＝おやばた、産元のこと）は織物と丸編みを合わせて80社（紳士30社、婦人50社）に減少しています。最盛期の1/6～1/20程度ようです。

小機（＝こばた、さんちゃんばた）も最盛期の昭和30～40年代には6000～8000軒あったものが200軒程度まで減っています。糸染め業者は、他産地では1～5軒しか残っていないようですが、尾州産地はまだ健闘している方で、それでも150軒あったものが20軒程度にまで減少しています。撚糸業者は、下請け、孫請けする機会が多いため、いつの間にか廃業していた等で把握が難しいのですが、他産地と同様にかなり減少しているようです。整理加工業者は、30～40軒あったものが6～7件（ウールコートを加工できる業者は3件しかない）まで減少しています。

このような状況ではありますが、地元日本毛織物等工業組合（5毛工業組合の上部組織）で情報交換等を行い、縮小する尾州産地の活性化に対応しています。今では当たり前になっている資源のリサイクルも、尾州産地では60～70年前から再生ウールに取り組んでいる実績があります。また、最近では一昨年若くは若世代（三代目）による「ひつじ（羊）サミット尾州」という業者の垣根を超えた産地活性化の活動を始めており、一般の方へもアピールして観光にも一役買っています。

新型コロナの影響は他産地もそうだと思いますが、これからも表面化してくると思われる。受注減少を補助金でなんとか遣り繰りしていたわけですから、補助金がなくなり受注が思ったように戻らなければ、特に家業でやっている小規模業者は後継者問題もあり、廃業するところも出てくると思われます。

新型コロナにより生産量は60～70%まで落ち込みましたが、昨年は80%程度まで回復しており、今年は今からですがコロナ前近くに足りつつある状況ではないでしょうか。特にメンズでは、中国のゼロコロナ政策の影響により先行して国内回帰が進み、年内は受注で埋まっている状況です。

一方で、国内回帰による生産増に対応できないリスクもはっきりしてきました。原糸については2～3カ月で手配出来ていたものが、今は9カ月かかります。特に梳毛糸は90%をインド、タイ、ベトナム等海外からの輸入に頼っているため深刻です。紡毛糸は70%が国産なのでそこまではありませんが、加工についても上述のように撚糸、機場の減少がボトルネックとなって、加工場の従業員不足（外国人労働者の帰国）もリスク要因となっています。

ここ1～2年は合繊一辺倒などがありました。SDGsの流れもありウール、綿、麻等の天然素材回帰が進むものと思っています。合成繊維に比べてどうしても価格が高い素材のため、ブランド向けは受け入れられると思いますが、低価格に慣れている一般消費者の意識がこの流れで天然素材回帰に向かうことを期待しています。尾州産地の裏作として、ウール以外の生産が増えてくることは期待するところで、SDGsの流れもあり麻、麻+多素材への回帰も期待できると思われます。なお、上記尾州情報については、たくさんの方から取材したものを集約して掲載しています。

第36回ミラノウニカ・レポート (株)麻絲商会 出展報告書

会期：2023年1月31日 - 2月2日

会場：Fieramilano Rho

コロナも治まってきた上に、3日間通して天候も良くそれほど寒く無かった事もあり、来場者は昨年比で多かった。

来場社数… 5,304社 (伊企業：3,804社 (+33%) 海外企業：1,500社 (+105%))

前年2022年2月比 (+47.5%)

しかし、Japanブースは広い展示会場の一番奥の端にあり場所的にブース周辺を歩いている人が少なく感じられた。

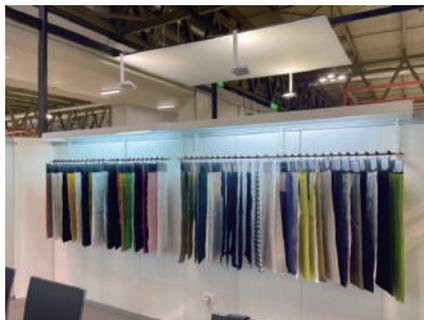
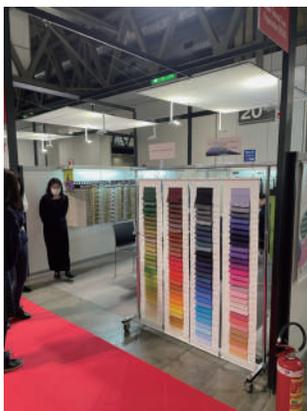


今展示会にはサステイナブルを意識した生地を中心に展出了しました。

サステイナブル素材だけを目当てに、または、サステイナブル素材しか扱わないといったアパレルの方も何人かブースを訪れてくださり、サステイナブルに対する意識は日本に比べヨーロッパの方が進んでいる事を実感させられた。

サステイナブル素材使用生地をピックアップされる方が全体的に多かったように思う。

- ・ヘンプ混
- ・キュプラ混
- ・オーガニックリネン使用
- ・リサイクルリネン使用綿麻



- ・弊社ブースの来客数：約 50 名
- ・ピックアップサンプル数：210 点

- 1 番人気 リネン 60/1 水撚り使用 リネンメッシュ
- 2 番人気 ヘンプ 1/24 使用 綿ヘンプ高密度



2 番人気の商品を含めヘンプ混の商品はサステイナブル素材ということもあり特に人気があった。

また、生地表情や変わった風合いの加工を施した生地もピックアップ数が多かった。

しかし、当時為替の影響でブースにてお伝えする生地単価が高額になってしまった事が非常に悔やまれる。

今回の出展での成果としてはまだ表れていないが、生地をピックアップして頂いたお客様に今後も引き続き連絡を取り合うなど対応に力を注いでいきたい。

ミラノウニカ出展報告

2023年3月31日
株式会社大長 山口 直之

概略

2024SS MILANO UNICA 展示会に出展 1月27日出発2月4日帰国
展示会 1月31日、2月1日、2月2日(3日間)
出展者数 475社 伊328社 日本26社・団体
来場社数 5,304社 前年比+47.5%
伊企業 3,804社+33% 海外1,500社+105%
特に来場が多かった国:韓国/日本+423% USA+143% UE+77%
ドイツ+67% フランス+32%
大長ブースへ来場しサンプルを渡した会社 48社
提出サンプル数 226点
着分依頼数1点5m(リネン100%綾バイオ加工)

ピックアップの傾向

一番ピックアップ点数が多かったのが、リネン100%ルポアン先染WD加工(リネン糸を澤染工で中白染をし、フランス綾の織物を特殊洗い加工したもの) 麻絲商会、滋賀麻工業とも先染織物が人気であったようす。リネンはより柔らかく、綿は高密度のものが人気。

ブースに来られた会社

有名どころでは、ロロピアーナ、シュプリーム、Krizia、REISS等。著名な会社ではないものの、歴史があり、高級素材のみを取り扱い、素材そのものを評価してくださる会社に来場して頂いたことは評価できると考えます。

所感

過去繰り返しブースに来場した、アルマーニ、セリーヌ、バレンシアガ、プラダ、グッチ、ジルサンダーのメゾン系ブランドの来訪がなく2年間のブランクを感じたが1年目にサンプル依頼のあった台湾アパレル、メールでのやりとりを重ねたロロピアーナ直接の訪問はなかったが代理デザイナーがピックアップに訪れたローマのma+など5回の出展を重ね商売はできていないものの、連絡を頻繁にとれる関係性が持てたことは大きいと感じる。

展示会終了後でも、先方の要望、開発依頼に対応できる体制を、エージェントの選定も含めて構築していきたい。

特に新規、パリのエージェントとの取組みを進めてみる。

また、ブースを訪れるお客さんは、大長をテキスタイルメーカーとして捉えており加工のバリエーションを展示するのではなく、主軸となる織物はなにか? を明確にする必要があると感じた。

今回の展示方法は、綿高密度織物、リネン高密度、リネン混高密度、リサイクル織物、レーヨン改質加工織物として展示。

*次回参加の場合は、通訳なしで英語での対応を可能にする。

以上

お知らせ

新刊「技術が支えた日本の繊維産業」上・下巻の紹介

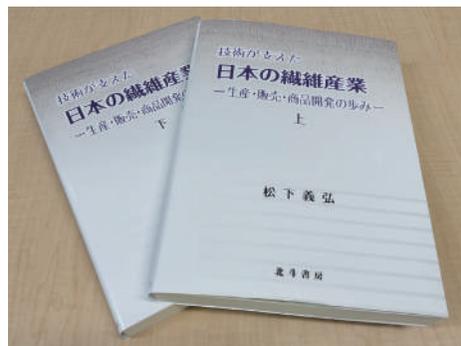
本書は、サブタイトルに「生産・販売・商品開発の歩み」と追記した、日本の近代化を支えた明治から今日までの日本の繊維産業史である。著者の松下義弘氏は、繊維学会創立70周年記念連載として2013年から2022年の8年4ヵ月を掛け、実に100回に及び繊維学会誌に寄稿されており、本書はその集大成である。

無味乾燥でありがちな産業史的記述ではなく、あくまで、現場に立ち、如何に日本の繊維産業が技術で支えられてきたのかを諸統計のデータを縦横に駆使しながら克明に記述された生きた繊維産業史である。

繊維の歴史は、過去、その中核を担ってきた紡績、合繊メーカー、商社、大手問屋などの社史に克明に記されているが、本書は製造業だけでなく産業発展に貢献してきたファッションアパレルや小売業、さらに、繊維川中産業を支えた各繊維産地の、織物、ニット、染色にも視野を広げて筆を入れ、その歴史が詳細に記述されている。

日本麻紡績協会が所属する日本繊維産業連盟（通称繊維産連、28団体加盟、会長鎌原正直）が推薦する本書は、同連盟が経済産業省との協議の中で、提言として取り纏めた「2030年に向けた我が国繊維産業のあるべき姿」へと、新たなバリューチェーン構築に向けた各社の取り組みに、極めて有用な示唆が得られるものと思われ、ここ「麻につるる」に紹介させて頂くものである。（文責香山）

松下義弘氏：繊維機械学会フェロー、繊維未来塾幹事



価格 15,000 円＋税（上・下巻セット）発行：北斗書房

日本麻紡績協会の現況

令和5年5月

日本麻紡績協会の年間活動報告

1. 現況

- ・ 日本麻紡績協会は2008年5月に新体制で再出発、今年15年目を迎えます。現在会員数は108社1協同組合、計109団体で構成、紡績・商社・各生産企業（撚糸、織、染色・加工、縫製）や企画、小売に至る全ての業種に会員が拡大しています。

2. 麻を取り巻く市況

- ・ コロナ禍の中、国内アパレル業界等を中心に市場環境は依然厳しく、原材料高、円安によるコストの上昇は利益を圧迫、最終価格への転嫁などの対応が急がれます。そうした厳しい経営環境下でも、麻素材は今日的なエコロジー・クール素材として、高温多湿な日本市場に確実に定着、地球環境を意識したSDGs素材としても一層注目度は高く、更なる飛躍が期待されています。
- ・ 日本における麻素材の唯一の団体ASABO（日本麻紡績協会）の役割・存在感が益々高くなっており、協会会員間のビジネス取引から取り組みへと進化しつつあります。

3. 活動報告

海外

- ・ 2021年から2022年を経て、新型コロナの影響もある中、国内・海外問わず多くのイベントが徐々に開催、国際交流はネット上での情報交換から対面交流に移行されつつあります。
- ①2023年1月31日～2月2日 イタリア・ミラノにてミラノウニカ展が開催されました。（日本麻紡績協会メンバー三社が出展）
- ②2023年3月27～31日 上海インターテキスタイル春夏素材展示会が開催されました。（日本麻紡績協会メンバー1社が出展）
- ③海外（CELC 欧州麻連盟・CBLFTA 中国麻紡織行業協会）と情報交換連携継続。

4. 令和4～5年度 国内定例行事等

- ①令和4年5月12日 総会懇親会 開催中止
- ②令和4年7月29日 理事 懇親昼食会 実施（理事全員出席）
- ③令和5年1月12日 年賀交歓会 開催（来場者58社 112名）
- ④令和5年5月23日 役員会・定時総会・懇親会 開催予定
- ホームページの内容刷新と外部メディア（マスコミ等）との協力推進化

以上

日本麻紡績協会 108 社、1 協同組合（五十音順）

- ア 青葉株式会社
株式会社 AKAI
株式会社アクシス
浅記株式会社
朝日加工株式会社
旭紡績株式会社
アトモスフェール・ジャボン株式会社
株式会社アマックスコーポレーション
株式会社 ANTS JAPAN
アンドー株式会社
今村株式会社
岩田工房
栄光染色株式会社
越前屋多崎株式会社
エップヤーン有限公司
株式会社エヌ・ビー・アール
近江織物株式会社
株式会社大志茂
オーハシセンイ株式会社
大森撚糸株式会社
小千谷織物同業協同組合
- カ カネマサ莫大小株式会社
有限会社金丸整理工業
甲株式会社
有限会社川登
株式会社カンセン
株式会社関東小池
菊高産業株式会社
岐セン株式会社
株式会社北国生活社
株式会社キョウワソーイング
株式会社金原
グロリア株式会社
桑村繊維株式会社
KBツヅキ株式会社
株式会社ケンランド
興和株式会社
有限会社小啓修整織物
- サ サイボー株式会社
澤染工有限公司
株式会社三幸
株式会社三幸ソーイング
株式会社三和リネン
有限会社シービープランニング
滋賀麻工業株式会社
信友株式会社
島村メリヤス株式会社
株式会社ジャスカ
株式会社成願
聖天株式会社
新成物産株式会社
新陽株式会社
鈴木晒整理株式会社
有限会社鈴木由商店
装研株式会社
- タ 株式会社ダイイチ
大恒株式会社
株式会社大長
株式会社タグチ
株式会社武田商店
株式会社タケミクロス
タッカ株式会社
辰野株式会社
田村駒株式会社
帝国繊維株式会社
有限会社テキスタイルベガ
株式会社テザック
東興産業株式会社
東洋繊維株式会社
東洋物産株式会社
東和株式会社
株式会社トーホーユニ
トスコ株式会社
殿岡服飾工業株式会社
豊川テキスタイル株式会社
豊田株式会社
- ナ 中伝毛織株式会社
中村株式会社
有限会社ナカモリ
西本株式会社
西山繊維株式会社
日新実業株式会社
ニット技研
- ハ ハイランド株式会社
服部テキスタイル株式会社
平岡織染株式会社
株式会社廣瀬商会
廣瀬又一株式会社
藤居織物工場
ブルーミング中西株式会社
株式会社穂高商事
- マ 株式会社麻絲商会
丸佐株式会社
丸進工業株式会社
株式会社丸萬
三重ユニフォーム株式会社
株式会社三崎
ミマス株式会社
未来テクノ株式会社
株式会社武蔵富装
株式会社むつ縫製
森菊株式会社
森保染色株式会社
- ヤ 山甚物産株式会社
ユウワ商工株式会社
株式会社ユニウェル
- ウ 有限会社リネット
リネンハウス株式会社
- ワ 株式会社ワールドプロダクションパートナーズ

MEMO

日本麻紡績協会

〒 103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL 03-3668-4641

FAX 03-3668-4642

Email jp-asabo@cb.wakwak.com

URL <https://www.asabo.jp/>

令和 5 年 5 月 23 日発行

本誌表題について

「麻につるる」は、ことわざ「麻につるる蓬（よもぎ）」に由来しています。ことわざの意味は、「曲がって生えやすい蓬でも、真っ直ぐに生える麻の中で育てば、曲がることなく自ずと伸びる」ということです。転じて、善良な人々に交われば、殊更に教育をしなくとも自然に善良な人に育つ、という意味に用いられます。日本麻紡績協会におきましても、麻に携わることを生業（なりわい）としている我々は、このビジネスに打ち込んでいる、それだけで真っ直ぐなビジネス人生を描いて、成長していくことができる、そういう想いと願いを込めて、当協会誌のタイトルといたしました。



亜麻（リネン）の花 Photo by CBLFTA

日本麻紡績協会

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL: 03-3668-4641

FAX: 03-3668-4642

Email: jp-asabo@cb.wakwak.com

URL: <https://www.asabo.jp/>